

登録コード:MH134200 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目 必修
科目名	母性看護健康論【20MJ以降】 health science of maternal nursing		
担当教員	金井 誠 芳賀 亜紀子・徳武 千足・鮫島 敦子・佐藤 優香		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	看護学専攻／2年 後期 火曜・1時限		
単位数、講義室	1単位	保健学科311講義室	遠隔授業科目
信大コンピテンシー	該当		
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		⇔ 授業の達成目標
	MH20カリ・保健		
	生命を尊び、人間についての幅広い知識を身に付け、対象を全人的に理解して、人々の健康を支援することができる。	⇔	妊産褥婦・新生児の生理的変化・正常からの逸脱について理解すること。
	保健・医療の専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得して、さまざまな状況で活用できる。	⇔	妊産褥婦・新生児の特性に応じた知識・技術・態度を獲得し、活用できるようになること。
	MH25カリ・保健・看護, MH23カリ・保健・看護		
	≪基礎的・専門的な知識と技能≫看護専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。 ≪科学的探求力≫変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。	⇔	妊産褥婦・新生児の生理的変化・正常からの逸脱について理解し、妊産褥婦・新生児の特性に応じた知識・技術・態度を獲得し、活用できるようになること。 長野県内の周産期医療提供体制の現状と課題を把握し、本授業で学修した内容を礎として、課題解決に向かって思考し、実行する意欲を持つようになること。
授業で学べる「テーマ」	健康長寿		
全学横断特別教育プログラム			
授業概要	第1-10回は母性看護を実践していくために必要な受精に関する知識、妊娠、分娩、産褥新生児に関する医学的知識について学びます。また、長野県における周産期医療提供体制の現状と課題についても学びます。第11-15回は「母性看護方法論」での学びと統合した母性看護の実践に関してフィジカルアセスメントと看護過程の展開について学びます。 本授業は、2年次前期に学んだ「母性看護学概論」の知識を前提とし、2年次後期の「母性看護方法論」と連動して相補的に学んでいく科目になります。そして本授業の内容は3年次の母性看護学実習における重要な基礎知識となります。 本授業は、男女共同参画に関する内容を含んでいます。 本授業は、担当教員の周産期医療における産婦人科医あるいは看護師・助産師としての実務経験を活かして講義を行います。		
授業計画	第1回 9月29日 長野県における周産期医療の現状と課題、性周期と妊娠成立、母体の変化、胎児・胎盤系 ㊦ｽﾄ2：P10-23、㊦ｽﾄ1：P1-39（金井） 第2回 10月6日 正常妊娠・母体と胎児の管理 ㊦ｽﾄ1：P40-100（金井） 第3回 10月13日 異常妊娠（1）㊦ｽﾄ1：P101-147（金井） 第4回 10月20日 異常妊娠（2）㊦ｽﾄ1：P148-187（金井） 第5回 10月27日 合併症妊娠 ㊦ｽﾄ1：P188-217（金井） 第6回 11月10日 正常分娩 ㊦ｽﾄ1：P218-261（金井） 第7回 11月17日 異常分娩（1）㊦ｽﾄ1：P262-303（金井） 第8回 11月24日 異常分娩（2）㊦ｽﾄ1：P304-357（金井） 第9回 12月1日 急速遂娩、産褥、妊娠・授乳と薬剤、新生児 ㊦ｽﾄ1：P358-435(金井) 第10回 12月8日 期末試験（金井） 第11回 12月15日 看護過程①（芳賀） 第12回 12月22日 褥婦のフィジカルアセスメント ㊦ｽﾄ4：P40-44、139-184(佐藤・徳武) 第13回 1月5日 新生児のフィジカルアセスメント ㊦ｽﾄ4：P185-231（鮫島・芳賀） 第14回 1月12日 看護過程②（芳賀・徳武） 第15回 1月19日 看護過程③（芳賀・徳武） 第16回 1月26日 看護過程④ 授業アンケート（芳賀・徳武）		
授業の進め方	1. 講義形式（医学的内容・金井担当分） 2. 看護の内容は、それまでに学習する医学的知識の習得を前提に、事例を用いてグループワーク形式で進めていきます。		
テキスト、教材、参考書	1. 病気がみえる Vol.10 産科（メディックメディア） 2. 病気がみえる Vol.9 婦人科（メディックメディア） 3. ナーシング・グラフィカ 母性看護学②母性看護の実践（メディカ出版） 4. ナーシング・グラフィカ 母性看護学③母性看護技術（メディカ出版） 上記をテキストとして指定（3年次も使用します）		
成績評価の方法	1)金井担当分は期末試験で評価します。期末試験は第10回（12月8日）に、筆記試験として実施します。期末試験は、合格基準以上獲得することで合格とします。 2)看護過程の課題（褥婦と新生児）は成果物の内容で評価します。褥婦と新生児の課題を各10点満点で「卓越している・かなり上にある10点」、「水準にある8点」、「要努力6点」で評価します。提出内容により再提出を求める場合があります。		

成績評価の方法	1) 期末試験得点を80点換算し、2) 看護過程成果物20点との総合得点60点以上を合格とします。結果については実施後にフィードバックを行います。
成績評価の基準	テストと看護過程の課題の最終評価基準 90-100点：秀、80-89点：優、70-79点：良、60-69点：可、60点以上の得点を合格。 テストの場合は、授業で示した例題と同レベルの問題が解ければ「水準にある」、応用問題が解ければ「やや上にある」、やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある」、例題からは難しい応用問題が解ければ「卓越している」 看護過程課題の場合は(i) 問題の設定が適切であり、(ii) その問題の背景を説明できており、(iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法が適切に把握できており、(v) その上で自分の見解を提示できており、かつ、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」、(i) から (v)の5項目を満たしていれば「かなり上にある」、4項目までできていれば「やや上にある」、3項目までできていれば「水準にある」とします。
事前事後学習の内容	[事前学習について] 毎回、次回の授業内容について1時間程度の予習をしてから授業に臨んでください。 [事後学習について] 毎回、授業中に、前回の授業の要点について質問を行いますので、自分の言葉で端的にわかりやすく説明できるように準備して授業に臨んでください。 本授業の単位修得には、45時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします。 授業時間30時間（2時間×15回）+自己学習時間15時間（1時間×15回）＝45時間 ＊以上の自己学習時間を考慮して、事前・事後学習に意欲的に取り組んでください。
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	質問は講義中もしくは終了後にいつでもして下さい。 相談などは、各担当にメールをお願いします。 金井誠：makotok@shinshu-u.ac.jp、芳賀亜紀子：akihaga@shinshu-u.ac.jp、徳武千足：ctokuta@shinshu-u.ac.jp、鮫島：atsuzuki@shinshu-u.ac.jp、佐藤：yksato@shinshu-u.ac.jp 研究室は中校舎3階にあります。